

現代GP

総合的人間力を育てるサイクルプロジェクト  
3年間を振り返って

## 三年間の取組を終えて

サイクルプロジェクト取組責任者 川上正浩

文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」、通称“現代 GP”に採択していただいた、本学の取組「総合的人間力を育てるサイクルプロジェクト ～ジェネリック・スキル教育を用いたキャリア教育開発プログラム～」も、2010年3月31日をもって、無事終了となった。取組責任者としては、道半ばにして3年間が終わってしまった、というのが正直な感想である。

そもそもキャリア教育とは何かを考えるとところから始まったこのプロジェクトは、キャリア教育そのものを、あるいは、本学における大学教育そのものを考える大きな営みへと変貌していった。

本学で学ぶ学生達にとって、本学で過ごす4年間で、とりもなおさず彼女らのキャリアそのものであり、大学というキャリアを彼女たちが人生の中にどう位置付けるのかが、もっとも大切なことであると思う。大学とは、専門（高等）教育機関であり、いわゆる専門知識を身につけさせることを目的としたところであることは論を待たない。しかしながら、この専門知識を何のために身につけるのかと言え、これは「社会で生きていくため」であり、身につけられるべき専門知識は「社会で活かされるもの」でなければならない。

そうした考えから、大学で学ぶ専門知識を社会で活かす“知恵”，すなわち、社会の中で出会う様々な問題、課題を解決するための“能力”を、大学生活を通して身につけてもらいたい、という本プロジェクトがスタートした。

本学では、まず、ジェネリック・スキルを、より具体的な形で再定義することを目指した。結局、本学の考えるジェネリック・スキル、すなわち、本学が学生に身につけて欲しいと考える力は、「気づく力」「考えぬく力」「聴き・伝える力」「やり遂げる力」の4つの力であるとの結論に至った。そして、これら4つの力が、循環する力であることにも意識を向けた。

また、ジェネリック・スキルを育てることを目的としたプロジェクト、サイクルプロジェクトでは、「正課授業」でこれらの力を育てることを核にし、これに「キャリア授業」「インターンシップ」「課外活動」を加えた4つのフィールドを想定した。本学のサイクルプロジェクトのキモは、この正課授業内でのジェネリック・スキル育成にあると考えている。

サイクルプロジェクトは、言ってみればこれだけのプロジェクトであるが、そのための様々な仕掛けを整備するのに3年間を費やしてきた。

まず、正課授業内でのジェネリック・スキル教育を、教員にも、そして学生にも意識しても

らうことを目指して、毎年作成される本学シラバスの中に、ジェネリック・スキル教育の視点を明示することを目指した。プロジェクト開始当初は、21科目という限定された正課授業からのスタートとなったが、現在では、本学のほとんどの正課授業で、ジェネリック・スキル教育的な観点をシラバス上に明示している。

学生自身が自らのジェネリック・スキルの到達度を把握し、またこれを蓄積していくために、Webポートフォリオというシステムを稼働させた。こちらも、プロジェクト開始当初はマークシート用紙による学生の自己評価と、エクセルファイルのプリントアウトによる学生へのフィードバック、というものであったが、現在ではWeb上の個人ページから、ジェネリック・スキルの自己評価、そして、そこでのアドバイザー教員とのコメントのやり取りが可能となっている。

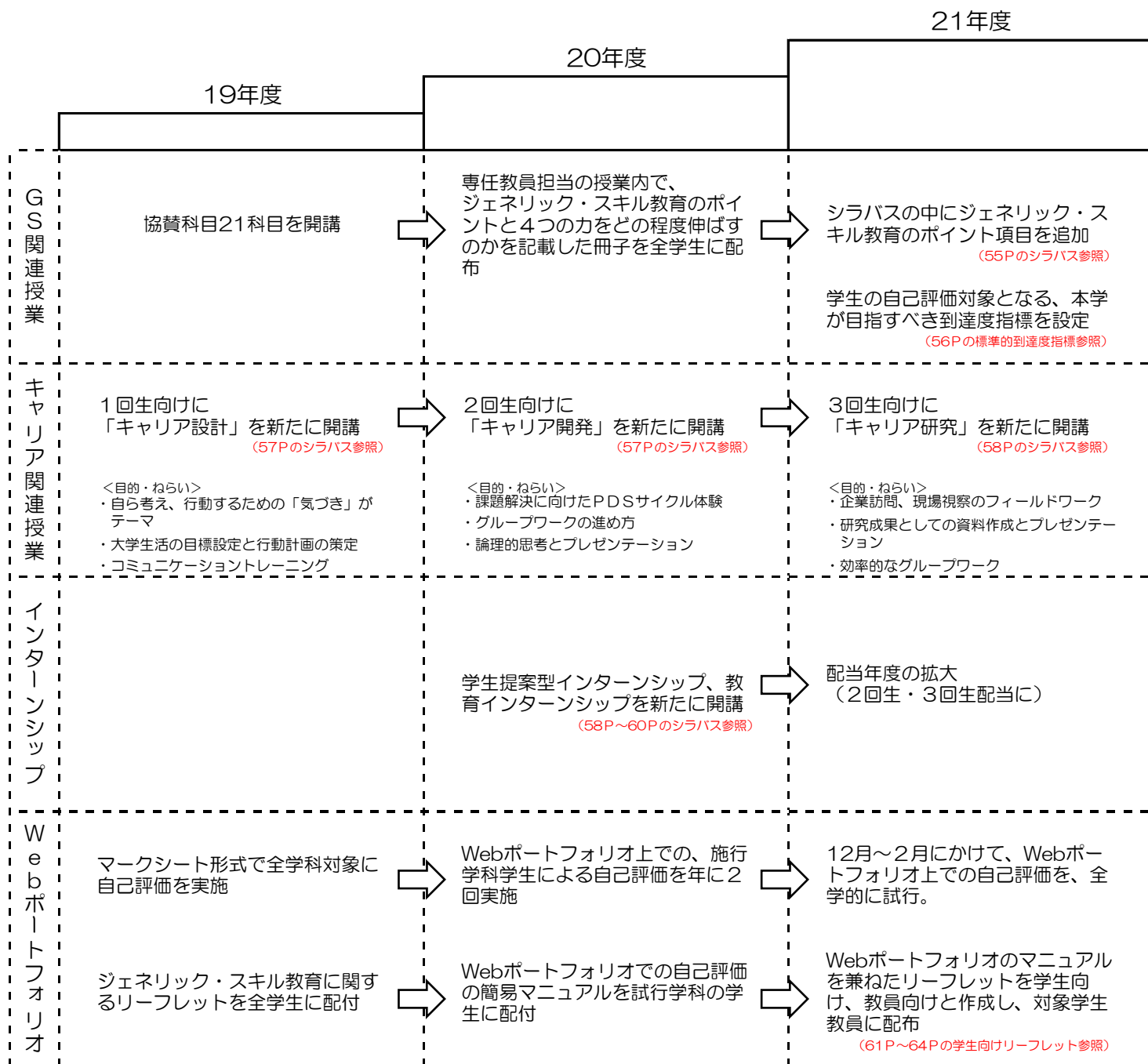
キャリア授業については、ジェネリック・スキル習得の理念を軸に、1回生、2回生、3回生とステップアップする「キャリア設計」「キャリア開発」「キャリア研究」の3つの授業を体系化し、整えた。正課授業と実社会での営みを、ジェネリック・スキルという軸で結びつける授業として、このキャリア授業が位置付けられるだろう。

インターンシップについても、従来の就業体験型に加え、学生提案型インターンシップと教育インターンシップを導入した。学生提案型インターンシップとは、ジェネリック・スキル教育実践の場としてのインターンシップである。企業との産学連携により、商品企画など企業のニーズ・課題に対して、学生ならではの、女性ならではの、の視点を生かした提案を学生が、まとめあげることを目指す。2010年度には3年目の実施となり、軌道に乗った本学の取組であると評価できる。教育インターンシップとは、近畿自治体の教育委員会との連携のもとに、主に夏休み期間を利用して幼稚園、小学校、中学校などで一定期間実習を行う。多様な教育支援活動に参加することで、教育現場の楽しさや厳しさに気づき、これをやり遂げることが求められる。

課外活動の場でのジェネリック・スキル教育については、今後の発展が求められる部分である。前述のWebポートフォリオというシステム上には、学生個人個人が、自らの課外活動（アルバイトやボランティア活動、実習等）の場で、自らの気づき等を記入し、これにアドバイザー教員がコメントを返すシステムそのものは構築したが、より積極的に学生に活用してもらうための“仕掛け”作りが必要であろう。システムの再検討も含めて、本プロジェクトの大きな課題の1つであると認識している。

最初に述べたように、現代GPとしての取組は平成22年3月にて終了したが、サイクルプロジェクトの道のりはまだまだ半ばである。今後とも、本学のサイクル・プロジェクトにご支援、ご協力、ご指導をいただきたい。

# サイクルプロジェクト3年間の経緯



## 22年度への課題

22年度への課題として、以下の2つを挙げることができる。まず、正課授業内でのジェネリック・スキル育成を目指す授業方法開発に対して、組織的な取組が必要である。本学のFD/SDとも連動しながら、授業内で、そして、教員や職員との関わりの中でジェネリック・スキルを“どのようにして”伸ばしていくのかの検討が求められる。2点目はWebポートフォリオの活用とFace to faceの教育プロセスとのバランスをどのように設定していくかについての吟味が必要である。それぞれのコミュニケーションの特性を精査しつつ、これらを統合的に活用した学生とのコミュニケーションシステムを構築することが重要である。

## <21 年度導入のシラバス様式例>

科目番号	心理学方法論	1 回生					
授業の到達目標 及びテーマ	授業で扱われる個々の知識の習得もちろん重要ですが、全体を見通す、より大きな視野の様なものの習得を狙いたいと考えています。 講義という枠にとらわれず、学生自身が「考える」授業として、「発言・相談・体験」する時間を大事にして行きたいと思っています。						
授業の概要	人間が最も興味をひかれる対象は人間であり、その人間を科学的に扱う学問が心理学です。人間は科学的に全てが割り切れるものではありませんが、現象の解明には科学的な手法が必要とされます。本授業では、将来心理学のどの分野に進むにしても基礎に当たる部分について概説します。						
授業計画	1. イントロダクション：心理学とは 2. 感覚・知覚の心理学（1） 3. 感覚・知覚の心理学（2） 4. 学習の心理学（1） 5. 学習の心理学（2） 6. 動機づけの心理学 7. 知能の心理学 8. 中間定期試験	9. 9. パーソナリティの心理学（1） 10. パーソナリティの心理学（2） 11. 自己と関係の心理学（1） 12. 自己と関係の心理学（2） 13. 再び心理学とは 14. 定期試験 15. 定期試験の振り返りとまとめ					
【テキスト】	『スーパーエッセンス心理学』石田潤・谷口篤 編著 北大路書房 2,500 円＋税						
【参考書】	『心理学』無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 有斐閣 3,600 円＋税						
【学生に対する評価】	平常の小テスト・小レポートおよび筆記試験により、心理学に関する知識の定着度を測定します。すべての授業に無遅刻、無欠席で臨むことを前提としたうえで、平常の小テスト・小レポート（評価の 40%）と筆記試験の点数（評価の 60%）によって評価します。						
GS 対応	<table border="1"> <tr><td>気づく</td></tr> <tr><td>考えぬく</td></tr> <tr><td>聴き・伝える やり遂げる</td></tr> </table>	気づく	考えぬく	聴き・伝える やり遂げる	GS 教育のポイント	人間の行動には、「意味」があることに気づき、その意味を考えぬくことを求めます。	
気づく							
考えぬく							
聴き・伝える やり遂げる							

科目番号	心理統計法 A	1 回生						
授業の到達目標 及びテーマ	この授業では心理学に必要な種々の統計的手法の学習と、コンピュータを用いたデータ解析作業の修得を目標としています。計算あるいは計算式そのものも、統計を理解する上で非常に重要ですが、ここではユーザとしての立場から、記述統計という方法論を概念的に理解し、コンピュータの助けを借りた上でそれを正しく使用できるようになることを大切なゴールだと考えています。							
授業の概要	心理学の研究では、人間を対象として集めたデータを扱います。こうしたデータから客観的な情報、解釈を引き出すためには、統計的な手法が必要です。心理統計法 A では、特に心理学において集められる様々なタイプのデータを、わかりやすく、かつ正確に記述する方法の実際を学びます。パソコンを使った実習形式を含みます。							
授業計画	1. 心理学でなぜ統計が必要か（記述統計とは） 変数とデータ、代表値 2. 測りたいものを測る（変数と尺度） 質的変数、量的変数、名義尺度、順序尺度 等 3. データを整理する（視覚的なデータ表現） 度数分布、ヒストグラム、棒グラフと折れ線グラフ 4. データを整理する（様々な代表値） 平均値、中央値、最頻値	5. データを整理する（様々な散布度） 範囲、分散、標準偏差 6. 2つの変数の関係を記述する 散布図による表現、正・負の相関係数 7. 2つの変数の関係を理解する 因果関係、擬似相関、切断効果、合併効果 8. 定期試験						
【テキスト】	吉田寿夫著 『本当にわかりやすいごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房 2,500 円							
【参考書】	ダレル・ハフ著 『統計でウソをつく法』 講談社ブルーバックス 560 円							
【学生に対する評価】	筆記試験、毎回の小レポートにて記述統計の知識と技術の定着度を測定します。すべての授業に無遅刻、無欠席で臨むことを前提としたうえで、平常の小テスト・小レポート（評価の 40%）と筆記試験の点数（評価の 60%）によって評価します。							
GS 対応	<table border="1"> <tr><td>気づく</td><td>考えぬく</td></tr> <tr><td>聴き・伝える</td><td>やり遂げる</td></tr> </table>	気づく	考えぬく	聴き・伝える	やり遂げる	GS 教育のポイント	各種統計量についてその意味を理解し、これを計算することで、やり遂げることを求めます。	
気づく	考えぬく							
聴き・伝える	やり遂げる							

## <標準的到達度指標>

### 気づく

1. 1つの事柄に関してその変化を捉えることができる
2. 他者や「異文化」の存在を認め、理解しようとしている
3. 「なぜ、どうして」を常に意識するようにしている
4. 最新の情報や科学の進歩について関心を持っている
5. 好奇心を持って授業にのぞむことができる
6. 周りのいろいろなことに興味を持っている
7. 入手した情報に関し、情報源と情報内容をチェックするようにしている
8. 大学で学ぶ知識と日常生活との関係性について考えている
9. 自分の考えやアイデアと他者のそれを比較することができる
10. 1つのことに対していろいろな方向から考えることができる

### 考えぬく

1. 問題点を把握し、その解決方法を順序立てて組み立てることができる
2. いろいろな展開を想定し、シミュレーションすることができる
3. 常識や定説にとらわれることなく自ら考えて行動することができる
4. 提示された情報について、その内容が示す意味を考えることができる
5. 提示された情報の整合性について考えることができる
6. 自らの考えを、整合性のある論理構成で、言語化することができる
7. なぜそのような結論に至ったのかについて筋道の通った説明ができる
8. 自分の思考の筋道について振り返ることができる
9. 情報を比較して、共通点や相違点がわかる
10. 解決への様々なアプローチを比較・考察することができる

### 聴き・伝える

1. インターネットや図書資料など、さまざまなメディアから情報を集める技術がある
2. 相手の知識や感情を意識して適切なやり取りができる
3. パワーポイントなどの視覚的ツールを適切に使うことができる
4. 論文、書籍などの文章で表現された情報内容を正確に読み取ることができる
5. 自分が伝えたい内容を情報の受け取り手を意識しながら表現することができる
6. 自分が伝えたい内容を文章、または、口頭で的確に表現することができる
7. 自分の意見を、論理的な文章構成で表現することができる
8. 書かれた内容や自分の考えを簡潔に要約することができる
9. 要点をわかりやすく短い文章で表現することができる
10. 相手が知りたがっているポイントを的確につかむことができる

### やり遂げる

1. 困難にぶつかったときも前向きにその課題に向かうことができる
2. 問題を解決するための打開策をみつけ、実行することができる
3. 困難なときも努力し続けることができる
4. やり遂げた結果に対する反省点を、次の試みに活かすようにしている
5. 課題に対して、自らタイム・スケジュールを設定し、管理することができる
6. 授業には集中してのぞむよう努力している
7. 課題の内容にあわせて適切に注意をむけることができる
8. 細かいミスのない作業を行うことができる
9. 物事に自発的にとりくむことができる
10. 満足しうる目的・目標を達成できているか

## ＜キャリア教育に関する科目シラバス＞

27001～ 27003	<b>キャリア設計</b>	1 回生	A 2	小 林 清 美
授業の到達目標 及びテーマ	自分にも社会にも真摯に向き合う中で「気づき」を得、そこから自分の課題を設定し、それを実現させるために何ができるかを考えていく。これが「キャリア設計」。社会の身近な問題をグループで話し合う等を通して、社会により関心を深めるとともに、自分を客観的に見直すことが可能となる。自分がどんな力をつけ、それをどのように活かしていくかを考える力をつける。			
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分を知らることを通して、自分にとっての望ましい生き方・働き方について考えていく。</li> <li>・ 協働作業（グループワーク）を通して、社会の身近な問題を調べ、考え合い、まとめ、発表する。</li> <li>・ ビジネスマナー、グループディスカッション、プレゼンテーションを体験する。</li> <li>・ 自分の現状の問題・課題を知ることを通して、その解決策を考える。</li> </ul>			
授業計画	1. オリエンテーション 2. 自分を知らる（1） 3. 自分を知らる（2） 4. 自分を知らる（3） 5. 自分を知らる（まとめ） 6. 協働作業（1） 7. 協働作業（2） 8. 協働作業（3）	—キャリア設計とは？— —価値観— —興味・関心— —能力・経験— —私・まとめ・シート— —問題・課題の発見— —情報収集・話し合い— —情報交換・話し合い—	9. 協働作業（4） 10. 協働作業（5） 11. コミュニケーションレポート 12. ビジネスマナートレーニング 13. ディスカッショントレーニング 14. 自分の現状を整理する 15. キャリア設計	—問題のまとめ・整理— —発表・質疑応答— —協力・共有— —マナーとは— —グループディスカッションの体験— —現状整理シート— —キャリア設計シート作成—
【テキスト】	なし			
【参考書】	随時プリントを配布する			
【学生に対する評価】	レポート①「私・まとめ・シート」（15%） レポート②「協働作業レポート（1）～（5）」（30%） レポート③「キャリア設計シート」（15%） 授業全体への積極的参画度（40%）			
GS対応	<b>気づく</b> <b>聴き・伝える</b>	<b>考えぬく</b> <b>やり遂げる</b>	GS教育のポイント	授業の大半を協働作業にあて、グループ内での課題設定、情報交換、考え合い、資料作成、発表を通して、聴き・伝える力、気づく力とともに考え合う力、最後までやり遂げる力も育成される。

27004 27005	<b>キャリア開発</b>	2 回生	B 1	田 知 本 治 志
授業の到達目標 及びテーマ	具体的なケーススタディやゲーム、グループディスカッション等を中心に①発見力、②論理的思考力、③コミュニケーション力、④遂行力、の4つの能力の強化を図ります。仕事を行う上で必ず必要とされる様々な方法論や考え方についても事例を通じて分かり易く説明し、企業活動の分析と平行させながら社会（企業）と自分との関わり（貢献）について理解することにより、自分自身の将来の方向性や進路の決定に役立てることを目指します。			
授業の概要	前半ではツールを使って自己分析をしたり、ゲームやグループ・ワークを通じて社会（企業）で求められる基本的なスキルを学びます。後半からは、各グループごとにケーススタディに対する課題解決策を考え、最後にプレゼンテーションを行うという「P→D→Sサイクル」を疑似体験します。本講ではグループ・ワークやプレゼンテーションに積極的に参加することが求められます。			
授業計画	1. はじめに「やりたいこと、できること、すべきことと職業（業界、業種）の選択」 2. 自己分析（自分の特徴や適性） 3. 社会で求められる基本スキルを身につける（1）PDSサイクル 考える→行動する 4. 社会で求められる基本スキルを身につける（2）問題発見と問題解決 課題の明確化→情報収集と活用 5. 社会で求められる基本スキルを身につける（3）ロジカルシンキング（ロジックツリーの活用） 6. 社会で求められる基本スキルを身につける（4）コミュニケーション力の強化（会話訓練、プレゼンテーション、マナーや挨拶の仕方など）	7. 「発見力」についての事例研究（1） 8. 「発見力」についての事例研究（2） 9. 「課題解決力」についての事例研究（1）SWOT分析 10. 「課題解決力」についての事例研究（2）ビジネスゲーム（店長としてレストランを開店する） 11. 「課題解決力」についての事例研究（3）レストラン開店についてグループワーク 12. 「課題解決力」についての事例研究（4）結果についてプレゼンテーション 13. 先輩による就職活動体験談（予定） 14. ゲストによる講話（予定） 15. まとめ、課題		
【テキスト】	MY CAREER NOTE II			
【学生に対する評価】	①出席率 45点 授業への取り組み（グループワーク、プレゼンテーション等への参加、積極性） 35点 レポート提出 20点			
GS対応	<b>気づく</b> <b>聴き・伝える</b>	<b>考えぬく</b> <b>やり遂げる</b>	GS教育のポイント	特にグループワークでのディスカッションや調査・企画、資料作成、プレゼンテーションにおいては、聴き、伝え、考え抜く能力を養う。

## ＜キャリア教育に関する科目シラバス＞

27006	キャリア研究	3回生	A 2	田 知 本 治 志				
授業の到達目標 及びテーマ	1年次でのキャリア設計では気づく力や考える力、聴き・伝える力、やり遂げる力の基礎を学び、そして2年次のキャリア開発では情報収集力、思考力、遂行力、コミュニケーション力の養成を通じて「なりたい自分」に近づくスキルをグループワークやプレゼンテーション等を織り交ぜながら学んだ。本講義ではこれらの応用として、就職活動等の進路決定を控えた3回生を対象にして、より実践的に企業や組織活動に触れ、発見力、論理的思考力、情報収集力、コミュニケーション力、遂行力の向上を目指します。							
授業の概要	前半では、基礎知識の再確認として「キャリア開発」の復習や業種、職種研究のポイントを説明する。その後、各自の興味ある業界・業種ごとにグループ分け（5グループ前後）をし、フィールドワーク（実際に企業や現地訪問、OG訪問等により視察やヒアリングを行う）を行いつつ、グループ単位での情報収集活動を通じて、その研究結果を発表し、意見交換を行う。又、途中で各業界（業種）の担当者を迎え、各業界の解説を行う予定である。							
授業計画	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（今後の予定など）</li> <li>2. 進路決定・就職活動に向けた基礎知識（1）</li> <li>3. 進路決定・就職活動に向けた基礎知識（2）</li> <li>4. 進路決定・就職活動に向けた基礎知識（3）</li> <li>5. 業界研究（1）</li> <li>6. 業界研究（2）</li> <li>7. グループワークによる業界研究（1）</li> <li>8. グループワークによる業界研究（2）</li> <li>9. グループワークによる業界研究の結果発表</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>10. ゲスト・スピーカーによる業界解説と質疑応答。（1）</li> <li>11. ゲスト・スピーカーによる業界解説と質疑応答。（2）</li> <li>12. プレゼンテーション・スキル（1）</li> <li>13. プレゼンテーション・スキル（2）</li> <li>14. プレゼンテーション・スキル（3）</li> <li>15. 学内発表会</li> </ol> </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（今後の予定など）</li> <li>2. 進路決定・就職活動に向けた基礎知識（1）</li> <li>3. 進路決定・就職活動に向けた基礎知識（2）</li> <li>4. 進路決定・就職活動に向けた基礎知識（3）</li> <li>5. 業界研究（1）</li> <li>6. 業界研究（2）</li> <li>7. グループワークによる業界研究（1）</li> <li>8. グループワークによる業界研究（2）</li> <li>9. グループワークによる業界研究の結果発表</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>10. ゲスト・スピーカーによる業界解説と質疑応答。（1）</li> <li>11. ゲスト・スピーカーによる業界解説と質疑応答。（2）</li> <li>12. プレゼンテーション・スキル（1）</li> <li>13. プレゼンテーション・スキル（2）</li> <li>14. プレゼンテーション・スキル（3）</li> <li>15. 学内発表会</li> </ol>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（今後の予定など）</li> <li>2. 進路決定・就職活動に向けた基礎知識（1）</li> <li>3. 進路決定・就職活動に向けた基礎知識（2）</li> <li>4. 進路決定・就職活動に向けた基礎知識（3）</li> <li>5. 業界研究（1）</li> <li>6. 業界研究（2）</li> <li>7. グループワークによる業界研究（1）</li> <li>8. グループワークによる業界研究（2）</li> <li>9. グループワークによる業界研究の結果発表</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>10. ゲスト・スピーカーによる業界解説と質疑応答。（1）</li> <li>11. ゲスト・スピーカーによる業界解説と質疑応答。（2）</li> <li>12. プレゼンテーション・スキル（1）</li> <li>13. プレゼンテーション・スキル（2）</li> <li>14. プレゼンテーション・スキル（3）</li> <li>15. 学内発表会</li> </ol>							
【テキスト】 業界地図（予定）、及びレジュメ配布								
【学生に対する評価】 ①授業への参加、態度 30点 ②授業への取り組み（グループワーク、プレゼンテーション等の発表、積極性） 50点 ③レポート提出 20点								
GS対応	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">気づく</td> <td style="padding: 2px;">考えぬく</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">聴き・伝える</td> <td style="padding: 2px;">やり遂げる</td> </tr> </table>	気づく	考えぬく	聴き・伝える	やり遂げる	GS教育のポイント	特にグループワークでのディスカッションや情報収集、資料作成、プレゼンテーションにおいては、聴き、伝え、やり遂げる能力を養う。	
気づく	考えぬく							
聴き・伝える	やり遂げる							

27007	インターンシップA (学生提案型)	2回生	C 1	田 知 本 治 志				
授業の到達目標 及びテーマ	企業活動は、商品やサービス等を発案・企画することから始まり、それを製造・販売、実践する現場まで、様々な歯車が噛み合っており成り立っています。本インターンシップでは「魅力的な商品や品揃え、店舗作りなど、若い世代の消費者のニーズに対していかに効果的にアピールするか」、企業の掲げる課題について、学生が消費者としての視点を生かした具体的な提言を行うことで企業活動の本質やチームワーク（協働組織）の重要性などについて学びます。							
授業の概要	1チーム5～7名程で各企業を担当し、教員及び企業担当者の指導の下でグループワーク、様々な場面でのフィールドワーク（現地調査）、そして企業に対する提案（プレゼンテーション）を行うことが主な授業の形式となります。そして「P→D→S」を社会の現場で実践することにより、発見力、論理的思考力、コミュニケーション力、遂行力の4つの能力の醸成を図ります。							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業活動の理解（企業の中でどのような仕事に関わりあっているか、マーケティング活動などの基礎知識）</li> <li>2. 企業が掲げる課題について、その背景、状況の理解及び解決方法の策定</li> <li>3. フィールドワーク（市場調査、業界調査、企業との打ち合わせ）</li> <li>4. 行動成果のまとめ（企業向け提言の作成）</li> <li>5. プレゼンテーションと評価</li> </ol> <p style="margin-left: 20px;">＜①②4～6月 ③各企業との相談により随時 ④⑤10～11月を予定＞</p>							
【テキスト】 なし								
【参考書】 随時、参考レジュメを配布する								
【学生に対する評価】 出席率、授業への取り組み姿勢、実習指導先企業からの評価、プレゼンテーションの内容など、総合評価する。								
【備考】 ①受講希望者は4月に行われる説明会（別途告知）に必ず参加すること。 ②受講希望者は1回生時に「キャリアデザイン」の単位を取得していることが必須。								
GS対応	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">気づく</td> <td style="padding: 2px;">考えぬく</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">聴き・伝える</td> <td style="padding: 2px;">やり遂げる</td> </tr> </table>	気づく	考えぬく	聴き・伝える	やり遂げる	GS教育のポイント	調査分析やディスカッション等を通じ、自分たちの考えた企画や提案をチームの仲間や企業の経営者、担当者に正確に伝え、場合によっては商品化されるプロセスで、GSの4つの能力が養われる。	
気づく	考えぬく							
聴き・伝える	やり遂げる							



## ＜キャリア教育に関する科目シラバス＞

27008	<b>インターンシップA (就業体験型)</b>	2回生	C1	永野 光朗・竹田 博信
授業の到達目標 及びテーマ	この科目は企業／行政機関／NPO など実社会での2週間程度の就業体験と事前のスクーリング、事後のスクーリング、レポート作成などを中心にして展開されるプログラムである。ここでは、次のようなことを目指す。① 大学での勉学内容を実社会での体験の中で見つめ直し、さらなる学習の契機と方向性をつかむ、② 就業体験を通じて、自らの将来について考える、③ 働く場での自身の評価を得ることで自らを見つめ直す、④ 職業観を養い、来るべき進路選択、職業選択に資する。			
授業の概要	就業体験への参加については、受け入れ先の事業所に迷惑をかけることのないよう、受講者に対しては <u>相当の覚悟を求め</u> る。就職活動と並行しての履修は困難であるので、3回生までの履修を強く推奨する。4月の登録時には登録しないこと。また、4月に行われる説明会（後日掲示板などを通じて告知）においてプログラムの内容やスケジュールを説明するので必ず参加すること。			
授業計画	以下のような計画により展開する。 1. 4月 <u>説明会（必ず参加すること）</u> 2.～5. 5月 申し込み受付（第1次、第2次共通） 書類審査、面接審査（第1次） 6月 書類審査、面接審査（第2次） 実習配属先の決定 6. マナー講習会など 実習に望む上で必要な知識と技能を得る講習	7.～10. 7月 事前スクーリング 決定した実習先の業種・業界についての研究 夏期休暇期間 実習（2週間程度） 11.～14. 9月 事後スクーリング 実習体験をもとにしたレポートの作成と検討 15. 10月頃 全体報告会および報告書の作成		
【テキスト】 指定しない。				
【参考書】 必要に応じて、その都度紹介する。				
【学生に対する評価】 事前・事後のレポート(40%)および実習受け入れ先の評価(40%)、報告会での発表(20%)				
GS対応	<b>気づく 聴き・伝える</b>	GS教育の ポイント	就業体験を通じてジェネリックスキルと身につけようというのではなく、すでにある程度のスキルを持っている者でなければ、受講は難しいだろう。	

27009	<b>インターンシップB (学生提案型)</b>	3回生	C1	田知本 治志
授業の到達目標 及びテーマ	企業活動は、商品やサービス等を発案・企画することから始まり、それを製造・販売、実践する現場まで、様々な歯車が噛み合っており成り立っています。本インターンシップでは「魅力的な商品や品揃え、店舗作りなど、若い世代の消費者のニーズに対していかに効果的にアピールするか」、企業の掲げる課題について、学生が消費者としての視点を生かした具体的な提言を行うことで企業活動の本質やチームワーク（協働組織）の重要さなどについて学びます。			
授業の概要	1チーム5～7名程で各企業を担当し、教員及び企業担当者の指導の下でグループワーク、様々な場面でのフィールドワーク（現地調査）、そして企業に対する提案（プレゼンテーション）を行うことが主な授業の形式となります。そして「P→D→S」を社会の現場で実践することにより、発見力、論理的思考力、コミュニケーション力、遂行力の4つの能力の醸成を図ります。			
授業計画	1. 企業活動の理解（企業の中でどのような仕事に関わりあっているか、マーケティング活動などの基礎知識） 2. 企業が掲げる課題について、その背景、状況の理解及び解決方法の策定 3. フィールドワーク（市場調査、業界調査、企業との打ち合わせ） 4. 行動成果のまとめ（企業向け提言の作成） 5. プレゼンテーションと評価 <①②4～6月 ③各企業との相談により随時 ④⑤10～11月を予定 >			
【テキスト】 なし				
【参考書】 随時、参考レジュメを配布する				
【学生に対する評価】 出席率、授業への取り組み姿勢、実習指導先企業からの評価、プレゼンテーションの内容など、総合評価する。				
【備考】 ①受講希望者は4月に行われる説明会（別途告知）に必ず参加すること。 ②受講希望者は1回生時に「キャリアデザイン」の単位を取得していることが必須。				
GS対応	<b>気づく 聴き・伝える</b>	GS教育の ポイント	調査分析やディスカッション等を通じ、自分たちの考えた企画や提案をチームの仲間や企業の経営者、担当者に正確に伝え、場合によっては商品化されるプロセスで、GSの4つの能力が養われる。	

## ＜キャリア教育に関する科目シラバス＞

27010	<b>インターンシップ B (就業体験型)</b>	3回生	C 1	永野 光朗・竹田 博信
授業の到達目標 及びテーマ	この科目は企業／行政機関／NPO など実社会での2週間程度の就業体験と事前のスクーリング、事後のスクーリング、レポート作成などを中心にして展開されるプログラムである。ここでは、次のようなことを目指す。① 大学での勉学内容を実社会での体験の中で見つめ直し、さらなる学習の契機と方向性をつかむ、② 就業体験を通じて、自らの将来について考える、③ 働く場での自身の評価を得ることで自らを見つめ直す、④ 職業観を養い、来るべき進路選択、職業選択に資する。			
授業の概要	就業体験への参加については、受け入れ先の事業所に迷惑をかけることのないよう、受講者に対しては相当の覚悟を求める。就職活動と並行しての履修は困難であるので、3回生までの履修を強く推奨する。4月の登録時には登録しないこと。また、4月に行われる説明会（後日掲示板などを通じて告知）においてプログラムの内容やスケジュールを説明するので必ず参加すること。			
授業計画	以下のような計画により展開する。 1. 4月 <u>説明会（必ず参加すること）</u> 2.～5. 5月 申し込み受付（第1次、第2次共通） 書類審査、面接審査（第1次） 6月 書類審査、面接審査（第2次） 実習配属先の決定 6. マナー講習会など 実習に望む上で必要な知識と技能を得る講習	7.～10. 7月 事前スクーリング 決定した実習先の業種・業界についての研究 夏期休暇期間 実習（2週間程度） 11～14. 9月 事後スクーリング 実習体験をもとにしたレポートの作成と検討 15. 10月頃 全体報告会および報告書の作成		
【テキスト】 指定しない。				
【参考書】 必要に応じて、その都度紹介する。				
【学生に対する評価】 事前・事後のレポート(40%)および実習受け入れ先の評価(40%)、報告会での発表(20%)				
GS対応	<b>気づく 考えぬく 聴き・伝える やり遂げる</b>	GS教育の ポイント	就業体験を通じてジェネリックスキルと身につけようというのではなく、すでにある程度のスキルを持っている者でなければ、受講は難しいだろう。	


# 総合的人間力を育てるサイクルプロジェクト

サイクルプロジェクト事務局

皆さんは、本学で行われている「**サイクルプロジェクト**」をご存じですか？

サイクルプロジェクトとは、**通常授業**、**キャリア科目**、**インターンシップ**、**地域貢献活動**を4つの柱として学生一人一人のスキルを磨く本学の取組のことで。

## いつもの授業の中でチカラが身につく 不思議な学びのシステム

気づくチカラ、考えぬくチカラ、聴き・伝えるチカラ、やり遂げるチカラを育てる  
学びのサイクルシステムで、社会が求める総合的人間力（ジェネリック・スキル）が自分のものに 



**総合的人間力（ジェネリック・スキル）をいつもの授業の中で学ぼう!**

**ジェネリック・スキル**とは、『社会』と接する時に（アルバイトなどでも）必要となる、**基礎的でどんな場面でも使えるチカラのこと**。大学で学ぶ専門知識とは別に、社会で  
出会ういろいろな課題を解決するために必要とされるチカラです。

本学では、これを「**気づくチカラ**」「**考えぬくチカラ**」「**聴き・伝えるチカラ**」「**やり  
遂げるチカラ**」の4つの循環するチカラだと考え、通常授業の時間を最大限に活用して  
伸ばします。

# <学生向けリーフレット> 「Webポートフォリオ」クイックスタートマニュアル

皆さんの成長を記録し、蓄積する為のツールとして、**Webポートフォリオ** というものを作りました♪  
ポートフォリオとは、「紙ばさみ」の意味があり、一つのファイルにレポートや課外活動の記録、その他色々な自分の記録を管理しながら蓄積していくということを指します。

**自己評価** をしたり、**課外活動を書き込んだりする** ことで、**自分の成長を記録** し **蓄積する** ことができます。これらの記録は、客観的に自分の成長を観察するのに役立ちます。

このようなサイクルを通して、皆さんの **ジェネリック・スキル** は確実に **UP↑** していきます。

また、記録をつけていくことで、エピソードをより鮮明に思い出すことができ、**学生生活が充実すること間違いなし!** です。

さあ、あなたも今から始めてみましょう♪

## 1. まずはアクセス！ ログインしてみましょう

●パソコンの**Web**ブラウザで次の**URL**を入力してください。  
<http://wp-st.osaka-shoin.ac.jp>

※学内のパソコンで入力・閲覧が可能。  
(自宅から…× 実習室・研究室…○)

●ログインします。

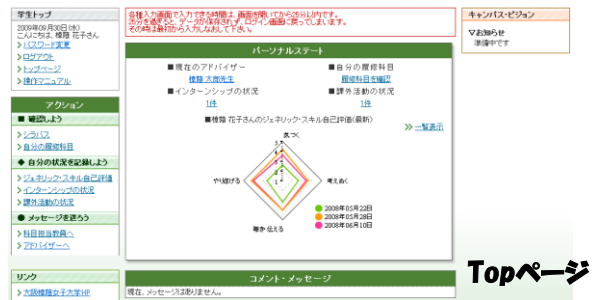


①学生番号  
先頭にローマ字の **s** (半角小文字) + **学生番号**(6桁)

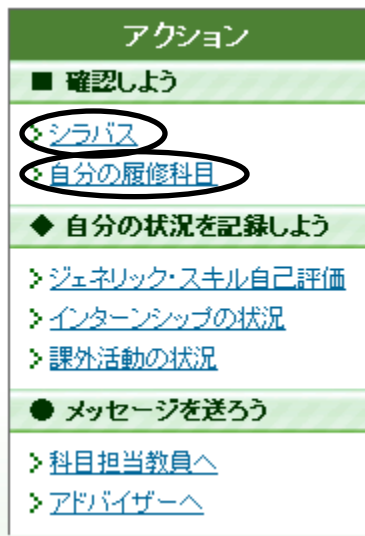
②PASSWORD  
**学生番号**(6桁) + **西暦の生年月日8桁**

例) 学生番号112233、生年月日2009年10月1日の場合

①学生番号→s112233、②PASSWORD→11223320091001



## 2. さっそく使ってみましょう



●履修科目を確認する。

Top画面の、自分の履修科目をクリックすると、履修した科目の状況を確認できます。

●シラバスが検索できる。

シラバスをクリックすると、シラバスの検索ができます。  
最終が試験かレポートかを確認する際に、素早く検索することができます。  
※21年度は工事中です。22年度より使用できます。

●シラバス検索

検索項目を選択・入力してください。

対象年度	---年	科目区分	-----
科目名		開講科目コード	
教員名		キーワード	
配当学年	<input type="radio"/> 1年生 <input type="radio"/> 2年生 <input type="radio"/> 3年生 <input type="radio"/> 4年生 <input checked="" type="radio"/> 全て		
科目指定	<input type="radio"/> キャンパス教育科目 <input type="radio"/> GS指定科目 <input type="radio"/> 科目指定なし <input checked="" type="radio"/> 全て		
4つの力	<input type="checkbox"/> 気づく <input type="checkbox"/> 考え抜く <input type="checkbox"/> 聴き・伝える <input type="checkbox"/> やり遂げる		

検索する      リセット

### 3. 自分で記録していきましょう (PART 1)

#### ●ジェネリック・スキル自己評価をしてみよう。

まず、自分のジェネリック・スキルがどれぐらいなのか、現状を確認しましょう。  
自己評価は、年に2回全学で実施されるので、少しずつチカラを伸ばしていけるように、授業をしっかり受けたり、課外活動などに挑戦してきましょう♪ また、**自己評価とコメントには、アドバイザー（ゼミ）の先生がコメントを返してくれます。**

#### 1. トップページ下のこの表示を探そう！

！ジェネリック・スキル自己評価をして下さい  
登録期間：2009年10月06日(火)～2009年10月10日(土)  
英米文学科、食物栄養学科の1～3年生を対象にジェネリック・スキル自己評価(調査)を実施します。この調査は2009年度に実施するもの第2回目となります。(テストです)  
**ジェネリック・スキル自己評価をする**

クリック！

↑の「！ジェネリック・スキル自己評価をして下さい」は、キャンパスビジョン（あるいは案内チラシなど）で連絡があった場合のみ表示されます。連絡があった場合は、登録期間中に自己評価してください。



#### 2. 実際に自己評価してみよう！

項目は全て必須入力です

◇気づく	1	2	3	4	5
1.ものごとをいろいろな角度から見ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2.自分の強み、弱みをわかっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3.目標を設定し、そのために何が必要かを考えることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4.他者の意見や考え方と自分の意見や考え方の違いをわかっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5.好奇心をもって、授業にのぞむことができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
◇考えぬく					
6.ひとつの考え方にこだわらず、柔軟に考えることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7.「なぜ、どうして」を常に意識し、論理的な考え方ができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8.情報を整理し、それに基づいて考えることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9.自分の考えを文章の形で表現することができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10.授業で学んだことと現実社会との関係について考えることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
◇聞き・伝える					
11.相手の話を真剣に聴くことができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12.立場や価値観の異なる人の意見を尊重することができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13.自分の考えや感情を適切な形で相手に伝えることができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14.わかりやすく話すことができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15.多くの人前で話すことができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
◇やり遂げる					
16.責任を持った言動ができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
17.集中して授業にのぞむことができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
18.継続力があり、結果、結論を出すまで取り組むことができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
19.結果について自己評価を行い、次の取組に活かすことができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
20.時間、期限を守る事ができる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

当てる場所をクリック！

#### 学生の声



- ★先生からのコメントが嬉しい。
- ★対面で話すのとは違ってゆっくりと考えることができる。
- ★時間を取られるのは面倒だけど、強み・弱みを振り返るいい機会になった。就活に活かしたい。
- ★資格試験などの目標を明確にすることが出来た。
- ★データが蓄積されていくので、自分がどれだけ成長したか見られるのが嬉しい。

などなど。

③ 入力内容を確認する クリック！

## 3. 自分で記録していきましょう (PART 2)

### ●課外活動の状況を書き込もう。

4つのチカラ（気づく・考えぬく・聴き伝える・やり遂げる）の観点から学んだこと、気づいたことなどを書き込んでいこう。書き込んだことには、アドバイザー（ゼミ）の先生がコメントを返してくれます。ですが、アドバイザーの先生と、いつから開始で、どのようなやり取りをするのかを事前に相談しておきましょう。

### ■例：課外活動（クラブ・サークル・ボランティア状況）を書き込む

#### ①まずは活動を登録しよう！

課外活動期間	課外活動先
2008年10月07日(水)～2008年10月08日(木)	テニ

#### ④活動記録を書く！

壁にぶちあたったこと、それを乗り越えた時のことを書いてみよう。また、そこから学んだことも書いてみよう！

#### ②活動の目的と内容を書こう！

クラブ、サークル、ボランティアに携わるようになったきっかけ、理由を具体的に書いていこう！

### 自分の記録を蓄積することで♪

- ★ 学生生活への目的意識をもつ！
- ★ 自分の成長を振り返る！
- ★ 就職活動時に自分の頑張りをアピールできる！

#### ③登録が完了したことを確認！

## 4. 先生とメッセージのやりとりができます♪

### ●アドバイザーの先生にメッセージが送れます。

学生生活で学んだことや疑問点、進路などをアドバイザーの先生に相談することができます。

※アドバイザーの先生にメッセージを送る場合は、事前にアドバイザーの先生とルールを決めましょう。ルールを決めない状態でメッセージを送っても、返事は返ってこない場合があります。

あなたが4年間で学び、体験するすべてが、卒業後に社会で活躍するための力になります。

さあ、あなたも今日から始めましょう♪

操作上のトラブルは、ITセンターまで。  
プロジェクトに関する質問は、サイクルプロジェクト事務局まで。  
E-Mail : sicle-office@osaka-shoin.ac.jp